

# STUDENT EXCHANGE NEWS

留学生センターニュース

ヴォーリズ学園 国際部・広報部



ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. &amp; JR. HIGH SCHOOLS

## 留学レポート (最終)

### 優しいポジティブシンキング

I21 メイソン可憐

姉妹校交換留学

Roong Aroon School (タイ)

7/14~8/25



タイで一番学んだこと、それは、なんとかなるものだ、ということだ。たとえ正確でなくても、土壇場の行動になったとしても、全てが終わったわけではないということである。

タイに行く直前、私は完全にパニック状態だった。なんと、家族揃ってフライトの日付を1日間間違えていたのである。今思い出してもゾッとすることだが、明日出発だと思っていたものが今日出発になり、急遽学校から帰宅することになった私はしばらく途方に暮れていた。何とか残りの荷物を詰めなおして、いくつか足りないものを嘆きながらも飛行機に乗り、ほうほうの体でタイまで辿り着いた。正直、ひとりだったら完全に心が折れていたかもしれない。飛行機の中でもドキドキとして全く眠れなかった私は、空港に迎えに来てくださったルンアルン学園の車で爆睡した。目覚める頃には学園はもうすぐそこで、気分も随分と落ち着いていた。これまでになく睡眠は偉大だと悟った瞬間であった。ほっとして冗談交じりにフライトの日付を取り間違えていたことを学園の先生やホストファミリー達に語ると、それは大変だったね、と同情されたあとに、何か困つたらなんでも助けるから、6週間楽しんでと曇りのない笑

顔とともに言われ、初めて訪れた地の全くの初対面の人間なのに、どこか懐かしささえ覚える安心感に私も思わず笑顔になってしまった。そして同時に、裏のない優しい感情をこのようにサラリと向けてくることのできるタイの人々の人間性というものを非常に好ましく思った。

それからトラブルは毎日のように訪れた。携帯電話の充電器のコードが動かなくなってしまったり、風呂場のタイルに足をぶつけてかなり血が出てしまったり、ホストファミリー宅の犬の散歩中に別の犬に襲われてホストシスターが怪我を負ってしまったり、今思うと洒落にならないようなこともいくつかあった。その時々はいちいちゾッとしたり、絶望を感じたこともあった。しかし、大丈夫、何とかなるから思い悩まないで、とホストファミリーや先生方、学園の友人達から言われ、実行していくうちに私は、己の物ごとの捉え方が随分楽観的になっていくことに気づいた。うじうじと思い悩むのではなく、さっさと分析して反省し、切り替えて次に進む。そういった、初めに安堵し感動したタイの人々の気性のように自分がなっているように思えた私は心から嬉しく思った。タイの人々は常にニコニコと、日々ゆったりとした気持ちで生きていた。この国では悲しみや絶望は無縁なのだろうかと思ってしまうほどにまで、タイは穏やかな国だった。

タイの人々は、大事なフライトの時間でもない限り、ほぼ、時間を正確に守ったりはしないようだった。実際現地でも何度も待ち合わせをしたが、30分と言って50分に来るといようなことは当たり前だった。人によってはルーズだとイラついてしまうのだろうが、私にはむしろ心地よかった。カタにはまらない、斬新でおおらかな風土は、とても暮らしやすく、心が軽くなるような居心地の良さを感じた。ある意味日本とは真逆のこの暮らし方が、タイの人々の優しいポジティブさを育てているのだろう。

タイの人々から私が一番学んだことは、その非常にポジティブであっけらかんとした寛容さだった。これは私の人生において、多分非常に大きなできごとだったのだと思う。物ごとをポジティブに捉えられるだけで、人生は180度変わる。私は留学から帰ってきてからそれを強く実感した。

今回、この2年の夏休みという重要な時期に、あの和気あいあいとした熱帯の国に留学という

機会を得られたことは私の人生の最高の幸運だった。

## 留学で学んだこと

I11 岸田 侑夕  
姉妹校交換留学  
Roong Aroon School (タイ)  
7/14~8/25



6週間のタイ留学が終わりました。今思うと、6週間辛いことも楽しいこともいろいろありましたが、本当にあっという間だったように感じます。

今回の留学をとおして私が学んだことは3つあります。

一つ目は、タイと日本との文化の違いです。タイでは、みんな、お風呂は冷たい水に入ることや、トイレでは紙が流せなかったり、たくさんの生活の違いで困ることがありました。私はタイに来るまで、日本があたりまえだと思っていましたが、今回の経験を通して、日本があたりまえではないんだと感じました。

また、バンコクのショッピングモールや建物は東京のように都会でとてもきれいです。少し離れた田舎のところに行くと、全く別の世界で、その差にとってもびっくりしました。

二つ目は、積極的になることの大切さです。私は昔からあまり積極的な性格ではなかったのですが、留学中は自分から積極的にいかないと、何も始まらないし、何もできませんでした。始めは、あまり積極的にいくことができませんでした。が、だんだん、自分から話しかけたり、いろんなことに積極的に参加していくことができるようになりました。そのおかげで、自分を成長させる貴重な体験になりました。

三つ目は、感謝することの大切さです。滞在中は、たくさんの人に助けられ、お世話になりました。一人では乗り越えられなかったことも、友達や先生やホストファミリーが居てくれたことで、充実した留学生活を送ることができました。また、感謝をしても、しっかりとその

気持ちを言葉で伝えることが一番大切だと感じました。相手に気持ちを伝えないと、自分の思っていることも何も伝わらないので、自分の意思をしっかりと言葉で伝えることは本当に大切だと思いました。これからもずっと感謝の気持ちと自分の意思を伝えることは忘れずに過ごしたいと思いました。

6週間の留学を終え、たくさんの経験をし、たくさんの人にお世話になり、たくさんのことを学ぶことができ、本当に良かったです。今回の経験を、これからの生活に生かしていきたいです。貴重な経験をさせていただき有難うございました。

## ただ今留学中

### ホストファミリーに感謝

I21 林 将央  
Grand Rapids Christian High School (アメリカ)  
2018/7/28 ~ 2019/3/25

#### (その1) サマーキャンプに参加

アメリカに来て約4週間が経ちました。アメリカに着いて初めての1週間は今年から Grand Rapids Christian High School に入学するインターナショナルの生徒達と現地のサマーキャンプに参加しました。着いた翌日からの参加だったのであまり状況も把握できず、英語に何一つ慣れていない状態だったので、2、3日はとても周りについて行くのが大変でした。特に、ジップラインなど危険なアクティビティで説明が何も聞き取れないのでアシスタントについてくれた大学生に何回も聞き返しました。そうしている



中で段々と英語にも慣れました。

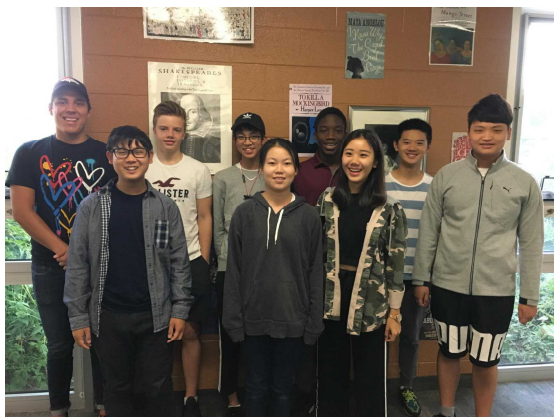
キャンプ中、アメリカの食事、生活、音楽、宗教などたくさんのものに触れることができました。また、自分の英語力がこれほどに低いものだったのかと小さく衝撃を受けました。それでもキャンプ中にはたくさんの友達もでき、とてもいい経験ができました。

2 週間目はインターナショナルの生徒達と先生でシカゴに観光をしに行きました。買い物をするにも食事をするにも何をするのにも英語でなければいけません。食事をするときはどうやって注文したら良いのかも書いてあるメニューがどんな料理なのかも分かりませんでした。周りには留学前から英語がペラペラ他の国の留学生の姿。なぜ日本人だけこんなに英語が話せないのかと、とても悔しかったです。3 週間目はホストファミリーとの生活が始まりました。

ホストファミリーは日本人を何度も受け入れていて英語のレベルをわかってくれていました。だから私に対してゆっくり何度も話しかけて来てくれます。また、私が間違った英語を使ったときには後から正しく言い直してくれます。とてもいい環境に恵まれていると思います。また、ホストブラザーは友達の家パーティーや釣り、フェスティバルなどたくさんの場所に連れていってくれます。本当に私を家族に受け入れてくださったことに感謝しています。

4 週間目は学校が本格的に始まりました。3 週間アメリカにいて英語に少しは慣れたと思っていました。ですが、授業と普段のホストファミリーとの生活は使う英語が違いました。早すぎて何を言っているのかも分からないし、配布されるプリントの単語が何か分かりません。それでもホストブラザーは宿題を手伝ってくれたり私をサポートしてくれます。今は日本では想像もしてなかった辛い生活でもこれを乗り越えれば言語を習得できていると思います。時間はたっぷりあるので焦らず自分のペースで頑張っていきたいと思っています。(2018/8/17 受信)

## (その2) 充実した学校生活



アメリカに来て早くも2か月が過ぎようとしています。この1か月は自分にとって成長を感じることでできた1か月だったと思います。学校が始まった1か月前、友達もいない、授業もわからない。そんな毎日を過ごしていました。私の留学は留学生用のカリキュラムがあるのではなく、普通の一般生徒同様の授業、課題、テストがあります。だから一般生徒以上の勉強をしないと日々の授業についていくことはできま

せん。私は今週一回放課後に2時間チューターさんについてもらって課題を手伝ってもらったり、ホストブラザーが部活動をしている時間に先に帰るのではなく学校に残って課題をしたりしています。そのおかげか最近は授業も完璧ではありませんが少しは理解できるようになり、グループ学習などでは発言できたり、質問できるようにになりました。さらに、自然と友達もできて、とても充実した学校生活を送ることができています。

友達や他の留学生と話す中で、みんなとても日本に興味があるんだなっていうのを感じます。休み時間に将棋を一緒にできる留学生、アニメや漫画のセリフをいきなり言う留学生もいます。中国から来た留学生と韓国から来た留学生はとても仲が良くよく3人で話します。基本は英語で話しますが、中国語、韓国語、日本語がたまに出てきて意味を覚えてもらったり、教えてあげたりもします。ICCで学んだ中国語がこんなところで役立つとは思いませんでした。発音やアクセントは完璧ではありませんが、簡単な中国語や韓国語は他の留学生と話す時に使うと初めはお互い壁があってもすぐ仲良くなれます。また、相手も日本に興味があれば私も話のきっかけを作りやすいし、相手も自分に興味を持ってくれます。

言語は知っていればいるほど自分の財産になると思います。まずは英語から極めていけたらなと思います。テストや学校行事がたくさんあるのでより充実した1か月にしたいです。

(2018/9/15 受信)

## オリエンテーションから学んだこと

I11 上野 聖真

Grand Rapids Christian High School (アメリカ)

2018/7/28 ~ 2019/3/25

### (その1) チャレンジする人たち

アメリカに来て3週間ほどがたちました。生活には慣れてきましたが、日本とアメリカでは想像以上に文化が違い、少しずつですが理解できるようになってきました。この3週間が一番大変だったのは着いてすぐにあった1週間のキャンプです。そのキャンプは生活やさまざまなアクティビティをする上でキリスト教について学ぶというものでした。日本語でキリスト教のことを学ぶのさえ難しいことがあるのに、英語でそれを学ぶのは僕にとって初めての体験でついでに行くのに必死でした。また、文化の違いがとても大きいことから生活が一変し、新しいことが多すぎてその1週間はとても濃いものとなりました。大変だったキャンプでしたが、たくさんのことを学びました。その中でも特に心に残ったものが3つあります。

1つ目は何ごとにもチャレンジすることができる人が多いことです。そのキャンプでは各グ

ループでやることが決められていたので、朝からウォータースライダーで遊ぶなど、普通はあまりしないことがたくさんありました。グランドラピッズの朝は少し寒いので水に入ることはあまり無いかと思っていたのですが、ほぼ毎日ありました。また、毎朝ある聖書について学ぶ時間では、まず自分で課題に取り組み、その後グループのみんなで自分の意見を出しあって一つの答えを出すというものでした。中には



わからないという人もいましたが、一人ひとり自分の考えを持つことにチャレンジしていました。

2 つ目は仲間を思いやることです。どんなときでも他の人のことを気にかけている人ばかりで、中々自分からできない僕を助けてくれました。

3 つ目は協力することです。アクティビティをした後には必ず自分が好きだった、嫌だったことや、そのアクティビティに神様がなにを与えてくれたか話し合い、お祈りをする時間がありました。お祈りはなかなかやる人がいなくて2人で協力してやるが多かったです。また、お風呂は全員で20分と決められていたので全員で協力して時間内に間に合わせることもありました。

これまでのことは当たり前なことだと思えますが、このキャンプで改めて大切なことで、当たり前のことをするのは難しいことだと思いました。いよいよ学校が始まり、また新しい生活が始まりました。わからないことがたくさんあり大変ですが、周りの人に聞きながらがんばります。

## (その2) Thank you Mrs. Mulder!

アメリカに来て1か月半がたちました。気温の移り変わりが激しく、朝晩は寒く、昼は暑い日が続いているように感じます。学校での生活にも慣れてきましたが、だんだん授業も難しくなってきました。初めの頃はならったことのある内容もありましたが、今では新しいことばかりでついていくのが大変です。

先週はほとんどの教科が一単元終わるところだったので4つのテストを受けました。僕がとつ

ている8教科では4教科テストが無いので他の人よりは簡単かもしれませんが、それでも結構大変です。特にアメリカの歴史は大変でした。はじめに習ったことがアメリカの目指す5つの理想でした。先週のテストではそれについてアメリカの歴史から今のアメリカは何ができていて、何が足りないのかというエッセイを書くといったものでした。まだそんなに歴史も習っていなかったので大変でしたが、放課後にあるシニアの方が教えてくださるプログラムと学校でtutoringの先生として働いているホストマザーのおかげでなんとか書き終えることができました。今週もいくつかテストがあるので勉強を怠らざがんばります。

3週間前から始まったアメリカンフットボールの応援をするDrumlineという部活では毎週水曜日の放課後に1時間半の練習をして月に2回ある学校のスタジアムでの試合で応援します。8月の終わりにあった試合が初めての本番でした。同じ楽器の人は5人しかいないので盛り上がりつつあるスタジアムで大きな音を出すのは大変ですが、すごくやっていて楽しいです。昨日は生放送のニュース番組で学校が取り上げられたので朝の5時半から準備をして1時間の放送の間で何回か演奏させてもらいました。生放送なのでいつ始まるかわからずドラムをずっと担いでいたのですごく疲れました。また、夜にもゲームがあったこともあり、一日がとても長く感じました。

昨日は留学生のオフィスで働いていたMulder先生の最後の日でした。先生にはなんども助けてもらっていたので感謝の気持ちでいっぱいです。しっかりと気持ちを伝えることができてよかったです。

これからも勉強を怠らず、アメリカでの生活を楽しみたいと思います。(2018/9/16 受信)

\*\*\*\*\*

## 受け入れ予定

高校2年生の海外研修旅行で交流をしている各地の学校から、生徒と先生の一行が学園を訪問します。

- ① Roong Aroon School (タイ)  
2018/11/1 (木) ~ 2 (金)
- ② Wesley Methodist School (マレーシア)  
2018/11/16 (金) ~ 19 (月)
- ③ 長栄高級中学 (台湾)  
2018/11/17 (土) ~ 19 (月)
- ④ St. Andrew's Junior College (シンガポール)  
2018/11/22 (木) ~ 25 (日)

いずれも詳細は未定です。

\*\*\*\*\*